

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																								
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		山野 大星		〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																																								
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																								
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																																								
分野		認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度																																				
文化・教養		芸術専門課程		スポーツ健康学科 テニスコース		平成25(2013)年度		-		平成27(2015)年度																																				
学科の目的		日本テニス界のトップ経験のある一流の先生を講師に、技術や戦術、トレーニング法、指導のノウハウまで幅広く学び、将来のテニス界で活躍するさまざまなプロを育成します。2年次から「プレイヤー専攻」と「コーチ・指導者専攻」に分かれ、専門学校屈指の施設環境のもとで専門スキルを身につけます。																																												
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		中退率:9%																																												
修業年限		昼夜		全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義		演習		実習		実験		実技																																
2年		昼間		※単位時間、単位いずれかに記入 1,700 単位時間 単位		390 単位時間 単位		1,650 単位時間 単位		1,575 単位時間 単位		0 単位時間 単位		390 単位時間 単位																																
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																								
120 人の内数		9 人		1 人		11 %																																								
就職等の状況		<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>:</td><td>0</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>:</td><td>0</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>:</td><td>0</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td>:</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和 4 年度卒業者に関する令和 5 年 5 月 1 日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) ㈱テニスユニバーズ、ノアインドアステージ㈱、㈱ニッケインドアテニス、中山産業㈱、ウインザー商事㈱</p>									■卒業者数(C)	:	0	人	■就職希望者数(D)	:	0	人	■就職者数(E)	:	0	人	■地元就職者数(F)	:	0	人	■就職率(E/D)	:	0	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	0	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	0	%	■進学者数	:	0	人	■その他	:		
■卒業者数(C)	:	0	人																																											
■就職希望者数(D)	:	0	人																																											
■就職者数(E)	:	0	人																																											
■地元就職者数(F)	:	0	人																																											
■就職率(E/D)	:	0	%																																											
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	0	%																																											
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	0	%																																											
■進学者数	:	0	人																																											
■その他	:																																													
第三者による学校評価		<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 特定非営利活動法人 私立 専門学校等評価研究機構 受審年月: 平成26年3月 評価結果を掲載したホームページURL: https://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>																																												
当該学科のホームページURL		https://www.neec.ac.jp/department/sports/health/tennis/																																												
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>720 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>720 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>720 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>720 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>									総授業時数	720 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	720 単位時間	うち必修授業時数	720 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	720 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位								
総授業時数	720 単位時間																																													
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																													
うち企業等と連携した演習の授業時数	720 単位時間																																													
うち必修授業時数	720 単位時間																																													
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																													
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	720 単位時間																																													
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																													
総授業時数	単位																																													
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																													
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																													
うち必修授業時数	単位																																													
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																													
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																													
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																													
教員の属性(専任教員について記入)		<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2人の内数 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>2人の内数 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人の内数 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5人の内数 人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>5人の内数 人</p>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人の内数 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人の内数 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人の内数 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計	5人の内数 人																								
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人の内数 人																																													
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人の内数 人																																													
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																													
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人の内数 人																																													
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																																													
計	5人の内数 人																																													

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

テニス業界に関する企業等と連携体制を確保して、プレイヤーとしての競技力向上のための実践経験やコーチやテニスクラブスタッフに必要な人間力を身につけるためのインターン及び実習や業界人として必要な商品知識の習得に関し、適宜ヒアリングを行いカリキュラムに反映させる。そのため、学内外の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をスポーツ関連業界より選定している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
井上 剛	公益社団法人 日本プロテニス協会 認定プロフェッショナル	令和5年4月1日～令和6年3月 31日(1年)	①
徳丸 豊	有限会社 フェアリーテニスフォーラム 常務取締役	令和5年4月1日～令和6年3月 31日(1年)	③
杉山 利昌	有限会社テニスピア・ジュエ 代表取締役	令和5年4月1日～令和6年3月 31日(1年)	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 校長	令和5年4月1日～令和6年3月 31日(1年)	—
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和5年4月1日～令和6年3月 31日(1年)	—
三樹 春幸	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和5年4月1日～令和6年3月 31日(1年)	—
伊藤 茂彦	日本工学院八王子専門学校 科長	令和5年4月1日～令和6年3月 31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月・8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年09月08日 14:00～15:40

第2回 令和5年03月10日 17:00～19:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

コミュニケーション力の高い学生を育成することが必要というご意見をいただき、テニス実技系授業でコミュニケーションを重要視しながら実施。PCスキルに関しては、PCの授業以外で成果発表制作過程での指導を実施。業界理解に関してはスクール・メーカー等の方にご協力頂き特別講演を実施している。現場経験、実践力を高めていく必要があり、その中で工夫や人間性を高める必要があるというご意見から、インターンシップを活用し各学生の現場経験を増やすという取り組みを行う。また、他のコース学生に対しコーチングを行い模擬レッスンとしてコーチングやコミュニケーション力を養う取り組みを行っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 テニス演習1において、有限会社テニスプロジェクトとの打ち合わせにより、テニスの特性を理解し、競技者に必要な技術を高め、年齢別に的確な指導ができるよう密に打ち合わせを実施し、練習内容を確認する。
 上記企業からの派遣講師が各自毎に必要な技術の洗い出し、技術プラス体力アップの練習を行い、試合に向けて現状の再認識し個人のレベルの向上を目指す。またテニスプレイヤー・コーチに必要な資格や、技能・実習内容や企業との打ち合わせの元作成した独自の評価を設定し、目標を明確にする。企業の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
テニス演習1	テニスの特性について理解し、年齢別にのび的確な指導が行えるコーチング力と競技者に必要な技術を養います。	有限会社テニスプロジェクト
テニス演習2	テニス演習1の基本をもとに、コーチング力と競技技術を高めます。	有限会社テニスプロジェクト
テニス演習3	テニススクールにおける実践的なコーチング技術と、競技場面において必要とされる技術力を高めます。	有限会社テニスプロジェクト
テニス演習4	個人の適正を考慮したコーチングと、技術指導が実践できる能力を養います。	有限会社テニスプロジェクト

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績
 ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: スポーツ×IoT・ICT活用でのモチベーション戦略	連携企業等: テクノジムジャパン株式会社 デジタルセールスマネージャー 井下和弘
期間: 令和4年9月13日 9:30-11:00	対象: スポーツ教員
内容: デジタルトランスフォーメーションがもたらす業態の変化	
研修名: 授業に活かす「プロスポーツチームの企画-運営の実例」	連携企業等: トヨタアルパルク東京株式会社 ビジネスオペレーション セールスグループ大野 晃
期間: 令和5年3月7日 13:00-14:30	対象: スポーツ教員
内容: 魅力ある授業・イベントの企画・運営について	

②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名： 学生指導力向上 期間： 令和4年9月15日 9:30－11:00 内容 Z世代の特徴と対応①	連携企業等： 株式会社ヒトスパイス 代表取締役社長 野本知里 対象：スポーツ教員
研修名： 学生指導力向上 期間： 令和5年3月7日9:30－11:00 内容 Z世代の特徴と対応②	連携企業等： 株式会社ヒトスパイス 代表取締役社長 野本知里 対象：スポーツ教員
③ 研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名： カリキュラム・指導とスポーツの職業への発展① 期間： 7月～9月を予定 内容 スポーツマーケティングの立場から現カリキュラム・指導を考える	連携企業等： 株式会社インターナショナルス ポーツマーケティング セール スディレクター島田和茂 対象：スポーツ教員
研修名： カリキュラム・指導とスポーツの職業への発展② 期間： 12月～3月を予定 内容 スポーツマーケティングの立場から現カリキュラム・指導を考える	連携企業等： 株式会社インターナショナルス ポーツマーケティング セール スディレクター島田和茂 対象：スポーツ教員
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名： 学生指導・保護者サポートのための教員力向上 期間： 7月～9月を予定 内容 近年の学生・保護者にあつたコミュニケーションについて	連携企業等： 株式会社ヒトスパイス 対象：スポーツ教員
研修名： 学生指導・保護者サポートのための教員力向上 期間： 12月～3月を予定 内容 近年の学生・保護者にあつたコミュニケーション・スキルについて	連携企業等： 株式会社ヒトスパイス 対象：スポーツ教員

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について

評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

- ・コロナ禍における学校運営の困難な中、新たな取り組み、施設面、教学面等々を向う中で驚愕するとともに敬意を表したいと思います。殊に学生を第一義としての設備の拡充とこの時期に特に求められる学生のメンタルケアへの取り組みを評価したいと思います。また、教育マネジメント部の様々な取り組みが更なるデータ資料となり学生支援、並びに教職員の方々の意欲の向上そして学園の更なる発展へのステップとなることを期待しています。
- ・課題解決に対し、年度ごとに十分な対策をたて、設備投資が実施出来ているということは、財政基盤が確りしているからでこそと思います。
- ・貴校の学生に対する思いには都度感心するばかりです。学生の為に取組まれている新しい部門(教育マネジメント部)を立ち上げた事により、現状に満足することなく、さらなる高みを目指されている事かと存じます。いろいろな分析にて貴校の状況(学生の考えや教職員の満足度等)を可視化し、評価していくのだと思います。1年、2年にとどまらず、継続して実施して頂ければと思います。
- ・卒業後の進路になる企業として、学校の取り組みやどういった人材を育てようとしているかがわかるのは非常にありがたいです。在校生だけでなく、OBの方々との繋がりも持てるようになると、更に連携も取れるかなと思いましたので、今後に期待しております。
- ・イケアとコラボされた図書館のリニューアルに驚きましたが、まだHPには掲載されていないようなのでもったいないなと思いました。
- ・一部に改善がなされると望ましい項目もありましたが、時間を要することと思いますので、継続した取り組みがなされるとよろしいかと思いません。全体的には学校運営がなされていると感じました。
- ・貴校が真摯に学生・教育に向き合い、常に改善を図っていく姿勢が感じられました。図書館の改修をはじめとする設備の充実化も学生の学習意欲の向上に寄与すると思います。進学を志す学生が多いことが学びを楽しめる環境であることを証明していると思います。また、教職員の自己評価で「仕事にやりがいを感じる」との回答が多いことは、教育に対する熱意を感じますし、良い社会人を生み出す原動力になると思います。引き続き、地域とのつながりを重視するとともに、卒業生が在籍する企業とのつながりも強化していくことで、就職率の向上と貴校のブランド力の向上を図っていただきたいと考えます。
- ・専門性を追求するカレッジ制を導入し、時代の求める真のスペシャリストを育成するために、目標や計画を実施している事が確認できました。また、社会人として必要な教養を身に付け、勤労と責任を重んずる、心身ともに健全なる技術者の育成を人材像として掲げ、取り組んでおられる事も確認できました。コロナ禍の中、継続して安定した学生数が確保されている事も、強みであると感じました。今後とも、御校から素晴らしい人材が地元八王子に貢献していただけることを、心より祈念いたします。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の4点について検討し活用する。

1. 学生満足度の向上
 - ・学生を知る活動の継続、日本工学院の独自性を発揮して生活面・感情面を充実させる。
2. 教育の質保証と向上
 - ・教職員の資質向上、満足度向上
3. 就職支援
 - ・就職満足度の向上、社会に貢献できる学生の育成サポート強化
4. コロナ禍における新しい時代に向けた「高専連携・地域貢献・地域連携」を模索していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	卒業生/企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務局長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和5年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。
また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育人人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和4年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和5年9月30日

授業科目等の概要

(芸術専門課程 スポーツ健康学科テニスコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネススキル1	社会人になるために必要なヒューマンスキルを身につけます。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			ビジネススキル2	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	1・後	30	2	○			○		○		
3	○			PC活用1	マイクロソフト認定Word資格取得に向けて、必要な基礎知識を学びます。	1・前	30	2		○		○			○	
4			○	PC活用2	マイクロソフト認定Word、Excel資格取得に向けて、必要な基礎知識を学びます。	1・後	30	2		○		○			○	
5	○			コーチング概論1	コーチングについてアクティブラーニング形式を中心に学びます。	1・前	30	2		○		○		○		
6	○			コーチング概論2	グッドコーチに求められる医・科学知識や現場・環境に応じたコーチングを学びます。	1・後	30	2		○		○		○		
7			○	解剖学概論	骨格、筋肉、心臓、血管、呼吸器、神経などの構造と機能について学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
8			○	コーチ学	スポーツ指導者とは、指導者の心構え・視点、競技者育成プログラムの理念、指導計画の立て方、スポーツ活動と安全管理、スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任などについて学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
9			○	スポーツ医学概論	スポーツと健康、スポーツ活動中に多いケガや病気、アスリートの健康管理と内科的障害と対策、呼吸循環器系の働きとエネルギー供給、アンチドーピング、スポーツによる精神障害などについて学びます。	1・後	15	1	○			○			○	
10			○	トレーニング科学1	競技者育成と評価、競技者育成システムにおける指導計画、競技力向上のためのチームマネジメント、競技スポーツとIT、体力とは、トレーニングの進め方、トレーニングの種類について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
11			○	栄養学	スポーツと栄養、アスリートの栄養摂取と食生活について学びます。	1・後	15	1	○			○			○	

(芸術専門課程 スポーツ健康学科テニスコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
12	○			テニス演習1	テニスの特性について理解し、年齢別に応じた的確な指導が行えるコーチング力と競技者に必要な技術を養います。	1・前	180	12		○		○		○	○	○
13	○			テニス強化演習1	テニスの基礎技術・戦術などを実践形式で学びます。	1・前	30	2		○		○		○	○	
14	○			トレーニング演習1	テニスプレイヤーとして最適なからだをつくるためのトレーニング方法を学び、実践します。	1・前	30	2		○		○		○		
15	○			HITトレーニング1	科学的な目線から開発されたトレーニングの基礎『HIT』を基にトレーニング方法を実践します。	1・前	30	1			○	○		○		
16			○	アウトドア実習A	オートキャンプ、カヌー、トレッキングなどのアウトドアライフの組立てについて、実習を通じて学びます。	1・前	30	1			○		○		○	
17			○	キャンプインストラクター実習A	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	1・前	30	1			○		○		○	
18			○	コーチングインターンシップA	地域テニススクールなどの現場実習を行います。	1・前	30	1			○		○	○		
19			○	コーチングインターンシップB	地域テニススクールなどの現場実習を行います。	1・後	30	1			○		○	○		
20			○	コーチング実習A	テニススクール、学内などでコーチングの現場実習を行います。	1・前	30	1			○	○		○		
21			○	コーチング実習B	テニススクール、学内などでコーチングの現場実習を行います。	1・後	30	1			○	○		○		
22			○	スポーツ自由研究A	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・前	30	1			○	○	○	○		
23			○	テニス実践実習1	対外試合を通じて、実践的なプレー感を養います。またスタッフ(審判、サポート)として参加し、テニス大会の運営に携わります。	1・前	60	2			○		○	○		

(芸術専門課程 スポーツ健康学科テニスコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
24			○	マリン実習A	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	1・前	30	1			○		○			
25			○	コーチング演習1	テニスを指導するための基本的な考え方を学習します。	1・前	30	2		○			○	○		
26			○	短期強化練習1	短期集中の練習計画のもと、技術、体力、精神力の強化方法について学びます。	1・前	60	4		○			○	○		
27			○	予防とコンディショニング	コンディションの把握・管理・方法と実際について学びます。また競技特性に応じたコンディショニングや、環境整備についても学びます。	1・前	30	1			○	○			○	
28	○			テニス演習2	テニス演習1の基本をもとに、コーチング力と競技技術を高めます。	1・後	180	12		○			○		○	○
29	○			テニス強化演習2	テニスの基礎技術・戦術などを実践形式で学びます。	1・後	30	2		○			○		○	○
30	○			トレーニング演習2	テニスプレイヤーとして最適なからだをつくるためのトレーニング方法を学び、実践します。	1・後	30	2		○			○		○	
31	○			HITトレーニング2	科学的な目線から開発されたトレーニングの基礎『HIT』を基にトレーニング方法を実践します。	1・後	30	1			○	○			○	
32			○	スキー実習A	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1			○		○		○	
33			○	スノーボード実習A	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1			○		○		○	
34			○	スポーツ自由研究B	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・後	30	1			○	○	○	○		
35			○	テニス実践実習2	対外試合を通じて、実践的なプレー感を養います。またスタッフ(審判、サポート)として参加し、テニス大会の運営に携わります。	1・後	60	2			○		○	○		

(芸術専門課程 スポーツ健康学科テニスコース)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	短期海外研修A	海外におけるテニス指導者のテクニックからテニスクラブの運営・管理について、講義と実技を通じて学びます。	1・後	60	2			○		○	○		
			○	短期強化練習2	短期集中の練習計画のもと、技術、体力、精神力の強化方法について学びます。	1・後	60	4		○			○	○		
			○	スポーツトレーニング実習A	メディカルフィットネスセンターなどを週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。	1・通	60	2			○	○		○		
			○	スポーツトレーニング実習B	メディカルフィットネスセンターなどを週2回以上利用して、トレーニング実践方法について学びます。	1・通	120	4			○	○		○		
			○	社会体育実習A	学外などにおいて現場の実践的な経験を積み、指導者としての資質を高めます。	1・通	60	2			○		○	○		
			○	日本赤十字社救急法A	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	1・通	30	1			○	○			○	
			○	キャリアアップセミナーA	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	15	0			○	○			○	
			○	キャリアアップセミナーB	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	30	1			○	○			○	
			○	キャリアアップセミナーC	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	45	1			○	○			○	
			○	キャリアアップセミナーD	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	60	2			○	○			○	
	○			ビジネススキル3	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	2・前	30	2	○			○		○		
	○			ビジネススキル4	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	2・後	30	2	○			○		○		

(芸術専門課程 スポーツ健康学科テニスコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	48		○	スポーツ経営学	スポーツ組織の運営、スポーツ事業の計画・運営・評価、地域スポーツクラブの機能と役割、広域スポーツセンターの機能と役割、地域におけるスポーツ振興方策と行政の関わり、我が国のスポーツ振興施策について学びます。	2・前	15	1	○		○		○		
	49		○	スポーツ心理学	スポーツと心、スポーツにおける動機づけ、コーチングの心理、メンタルマネジメント、指導者のメンタルマネジメント、スポーツ相談の意義、スポーツ相談の実際、子どもたちを取り巻く問題点と運動・スポーツの必要性などについて学びます。	2・前	30	2	○		○			○	
	50		○	テニス教師対策1	日本体育協会公認テニス教師取得をめざし、理論を実施します。	2・前	30	2	○		○		○		
	51		○	トレーニング科学2	トレーニング理論とその方法、トレーニング計画とその実際、体力テストとその活用、スキルの獲得とその獲得過程、スポーツバイオメカニクスの基礎を学びます。	2・前	30	2	○		○		○		
	52		○	健康教育学	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴、発育発達期に多いケガや病気、発育発達期のプログラムなどについて学びます。	2・前	15	1	○		○		○		
	53		○	テニス教師対策2	日本体育協会公認テニス教師取得をめざし、理論を実施します。	2・後	30	2	○		○		○		
	54	○		テニス演習3	テニススクールにおける実践的なコーチング技術と、競技場面において必要とされる技術力を高めます。	2・前	180	12		○	○		○	○	○
	55	○		テニス強化演習3	テニスの基礎技術・戦術などを実践形式で学びます。	2・前	30	2		○	○		○	○	
	56	○		トレーニング演習3	テニスプレイヤーとして最適なからだをつくるためのトレーニング方法を学び、実践します。	2・前	30	2		○	○		○		
	57		○	アウトドア実習B	オートキャンプ、カヌー、トレッキングなどのアウトドアライフの組立てについて、実習を通じて学びます。	2・前	30	1			○		○		○
	58		○	キャンプインストラクター実習B	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	2・前	30	1			○		○		○

(芸術専門課程 スポーツ健康学科テニスコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	コーチングインターンシップC	地域テニススクールなどの現場実習を行います。	2・前	30	1			○	○	○		
			○	コーチングインターンシップD	地域テニススクールなどの現場実習を行います。	2・後	30	1			○	○	○		
			○	コーチング実習C	テニススクール、学内などでコーチングの現場実習を行います。	2・前	30	1			○	○	○		
			○	コーチング実習D	テニススクール、学内などでコーチングの現場実習を行います。	2・後	30	1			○	○	○		
			○	コーチング演習2	テニススクールにおける指導理論を演習にて学びます。	2・前	90	6	○		○		○	○	
			○	スポーツ自由研究C	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・前	30	1			○	○	○	○	
			○	テニス実践実習3	対外試合を通じて、実践的なプレー感を養います。またスタッフ(審判、サポート)として参加し、テニス大会の運営に携わります。	2・前	45	1			○	○	○		
			○	プレイヤー演習1	競技力向上をめざし、技術・戦術のトレーニングを行います。	2・前	90	6	○		○		○		
			○	マリン実習B	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	2・前	30	1			○	○		○	
			○	短期強化練習3	短期集中の練習計画のもと、技術、体力、精神力の強化方法について学びます。	2・前	30	2	○			○		○	
	○			テニス演習4	個人の適正を考慮したコーチングと、技術指導が実践できる能力を養います。	2・後	180	12	○		○		○	○	○
	○			テニス強化演習4	テニスの基礎技術・戦術などを実践形式で学びます。	2・後	30	2	○		○		○	○	

(芸術専門課程 スポーツ健康学科テニスコース)																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
71	○			トレーニング演習4	テニスプレイヤーとして最適なからだをつくるためのトレーニング方法を学び、実践します。	2・後	30	2		○		○		○			
72			○	コーチング演習3	テニススクールにおける指導理論を演習にて学びます。	2・後	60	4		○		○		○			
73			○	スキー実習B	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2・後	30	1			○		○			○	
74			○	スノーボード実習B	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2・後	30	1			○		○			○	
75			○	スポーツ自由研究D	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・後	30	1			○	○	○	○			
76			○	テニス実践実習4	対外試合を通じて、実践的なプレー感を養います。またスタッフ(審判、サポート)として参加し、テニス大会の運営に携わります。	2・後	45	1			○		○	○			
77			○	プレイヤー演習2	競技力向上をめざし、技術・戦術のトレーニングを行います。	2・後	60	4		○		○		○			
78			○	短期海外研修B	海外におけるテニス指導者のテクニックからテニスクラブの運営・管理について、講義と実技を通じて学びます。	2・後	60	2			○		○	○	○		
79			○	短期強化練習4	短期集中の練習計画のもと、技術、体力、精神力の強化方法について学びます。	2・後	30	2		○			○	○			
80			○	インターンシップ	テニススクールなどでインターンシップを経験します。	2・通	45	1			○		○	○			
81			○	スポーツトレーニング実習C	メディカルフィットネスセンターなどを週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。	2・通	60	2			○	○		○			
82			○	スポーツトレーニング実習D	メディカルフィットネスセンターなどを週2回以上利用して、トレーニング実践方法について学びます。	2・通	120	4			○	○		○			

(芸術専門課程 スポーツ健康学科テニスコース)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	社会体育実習B	学外などにおいて現場の実践的な経験を積み、指導者としての資質を高めます。	2・通	60	2			○		○	○		
		○	日本赤十字社救急法B	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	2・通	30	1			○	○			○	
	○		成果発表	在学中に学んだ事を基に成果発表のための企画・準備・運営を実施します。	2・通	60	4	○			○	○	○		
		○	キャリアアップセミナーE	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	15	0			○	○			○	
		○	キャリアアップセミナーF	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	30	1			○	○			○	
		○	キャリアアップセミナーG	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	45	1			○	○			○	
		○	キャリアアップセミナーH	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	60	2			○	○			○	
合計						89	科目	4005時間 198単位			単位(単位時間)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	卒業時に必修科目1290時間(84単位)および選択科目410時間(11単位)以上取得し、合計1700時間(95単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期
履修方法:	1年次は必修690時間、選択科目160時間以上履修すること。 2年次は必修600時間、選択科目250時間以上履修すること。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。